

山戸結希



山戸 結希(やまと ゆうき)
 1988年生まれ、刈谷市立依佐美中学校出身。2012年、『あの娘が海辺で踊ってる』でデビュー。2016年、小松菜奈・菅田将暉W主演の長編『溺れるナイフ』が60万人以上を動員し、20代女性の監督作品における前例なき大ヒットとなった。RADWIMPS、乃木坂46、Little Glee Monster、DAOKOのミュージックビデオの映像監督も務める。現在、東映配給作品『ホットギミック ガールミーツボーイ』が全国公開中。

山戸結希×刈谷市

―刈谷のいいところ

刈谷に暮らす皆さんがほんとうに優しい心を持っているところだと思います。

―幼少期の思い出

田んぼの中を自転車で、どこまでも走っていました。

―中学生時代の思い出

依佐美中学校の廊下に文庫が設置され、当時の国語の先生が素晴らしいチョイスをしてくださっていました。それをきっかけに、山田詠美、村上龍の小説に出会えました。近代文学から現代まで、今思い返しても、とても尖ったチョイスでした。生徒の創造性を信じてくださったからこそ、為せる業だったのでしょ。新しい世界の扉、つまり文化に触れるきっかけをくださったこと、感謝の念に堪えません。

―一番印象に残っているイベント

刈谷わんさか祭りに、友達と行きました。帰り道、祖母が結んでくれた浴衣の帯が外れ、泣いていたところ、刈谷駅前にて見知らぬマダムが、「あなたどうしたの?」と、シユシユと結んでくださいました。そんな大人になりたいものです。

―一番思い出のある場所とエピソード

依佐美中学校の校長先生方の粋な計らいで、自主制作映画「おとぎ話みたい」の卒業式のシーンの撮影を、1・2年生の3・4時間目を使って行っていただけなのに、どれだけ感謝しても足りません。あの時に応援してくださった先生方、精一杯合唱に参加してくださった当時の学生の皆さん、素晴らしい美しい演奏をしてくださったオーケストラ部の皆さん、愛しています。また、給食の時間が迫った際に、給食委員の皆さんを先に抜けさせたりすることで、鋭い機転を利かせて暖かいサポートをくださいましたことも、忘れられませんね。



▲依佐美中での撮影の様子

―刈谷市民の皆さんに向けてのメッセージ

今でも折にふれ、大切なふるさとに関わる機会をいただけます。とくに、大変、感謝しております。

山戸結希×映画

―映画監督になったきっかけ

周囲に巻き込まれて撮影した一作目が、しかし撮っていて「ああ、これだ!」という実感がありませんでした。その一作目が映画賞に入賞し、映画のお仕事を始めることになりました。

―好きな映画

岩井俊二監督の『リリイ・シュシュのすべて』における田んぼが広がる田舎の風景は、まるで刈谷のそれを思わされ、ドキドキしました。新旧問わず、みずみずしい映画が好きです。

―一番印象に残っている作品

毎回、凄まじい印象をもたらされるため、一回一回に極限的な面白さがあります。その中でも、映画『溺れるナイフ』の公開時、東浦のイオンシネマでも公開されたことは、学生時代に、

自転車で遊びに行っていた場所だったため、印象深い想いをさせていただきました。

―映画監督として一番嬉しかった出来事

保健室登校をしていた依佐美中学校の女の子が、教室に行くきっかけにしてくれたことです。

―映画を観る人に伝えたいこと

私の映画を観てくださるのは、全国公開となった『溺れるナイフ』、6月28日公開の『ホットギミック ガールミーツボーイ』共に、10代の女の子が最も多いかと思えます。その中には、毎日、楽しく過ごしている子ばかりではないのではないかと思います。ことを、その季節の体験者として想像します。学校の教室には、いじめや村八分、スクールカーストが逃れがたく存在し、管理教育の抑圧もあるでしょう。日々が、永遠のように続くあの時間

感覚は、若さ故の「地獄」と言っても良いものでした。爆発寸前の女の子の心を、リアルに想像することが出来ます。「女の子が、自分には意志があるということ」を、発言すること。「自らの意志に基づき、選択することが許されていること」「もっと自由に生きる権利が、あなたにはあること」を、伝えたいです。そうした祈りの元に、全国の少女へと向かって映画を撮っています。

―最新作『ホットギミック ガールミーツボーイ』について

10代の少女向け漫画である『ホットギミック』を映画化するにあたり、サブタイトルを、『ガールミーツボーイ』と映画版では、新たに添えています。これまでの恋愛物語における永らくの代名詞であった「ボーイミーツガール」を反転する、「ガールミーツボーイ」としての芸術を、描いてみようと思っていました。

つまり、自分自身の主体性を奪われる恋ではなくて、自分自身の主体性を知るための恋が、もしもこの世にあるのなら、そのようなものをこそ今、新しく生まれる青春映画に映し出してみたいという念願がありました。孤独な少女の漂流譚が、孤独を生きる人々へと届きますように。7月に刈谷日劇さんで『ホットギミック ガールミーツボーイ』



▲『ホットギミック ガールミーツボーイ』撮影の様子

山戸監督作品

溺れるナイフ



東京で雑誌モデルをしている美少女・夏芽は、ある日突然浮雲町に引越すことになる。自分が欲する「何か」から遠ざかってしまったと落ち込む夏芽だったが、コウに出会い、強烈に惹かれていく。

出演 小松菜奈、菅田将暉、重岡大毅 (ジャニーズWEST)

21世紀の女の子



企画・プロデュースを務め、「自分自身のセクシャリティあるいはジェンダーがゆらいだ瞬間」をテーマに、新進気鋭の映画監督15人が参加したオムニバス作品。第31回東京国際映画祭に正式招待、特別上映された。

ホットギミック ガールミーツボーイ



自分に自信の持てない初が、同じマンションで暮らす少年たちの間にさまよいながら、一つの答えを探し求める。

6月28日より、東映配給にて、全国ロードショー。刈谷日劇でも、7月より上映が決定している。

出演 堀未央奈、清水尋也、板垣瑞生、間宮祥太郎、桜田ひより、上村海成、吉岡里帆、反町隆史